自然エネルギー:ミニ学習(67)　　高野市長との懇談

文責　宮井

(一)高野市長と「自然エネルギー」を巡って懇談しました。

二期目の市長選で「スマートエネルギー都市への取組拡大」を掲げ、候補者に「会」が提出した6項目の質問に回答を寄せていた高野市長と懇談しました。9 人の会員が参加し市長応接室で 3 月 17 日午後 3 時半から 30 分間、今回は、(1)スマートエネルギー都市(自然エネルギー都市)を目指す基本姿勢、(2)遅れている地球温暖化対策推進計画にもとづく世帯への太陽光パネルの普及、を中心に意見交換をしました。

(二)スマートエネルギー都市(自然エネルギー都市)を目指す基本姿勢

高野市長が、冒頭に、「3・11の事故を受けて、忘れていた自然の大切さを思い化石燃料に頼らないあり方を考えるとき、**この先は“スマートエネルギー(自然エネルギー)”は避けて通れない**という想いからこの公約をした」と披瀝しました。

具体的な展開としては

「いろいろあるが、市が率先して、公共施設などに太陽光パネルを取り付け、折に触れて私などは自然エネルギーの大切さを説いてゆくことだと思う」「行政全体として得意分野でなく各地の事例に学んで進めたい」としました。

会からは、「市長は市民協働については、行政が宣言を発するなどイニシアチブを発揮した。この問題でも、指導力を発揮して欲しい。」「先進の自治体では、法人市民である地元の企業や大学などと共同して、地元の資源を生かしたモデル事業、実証事業などに応募している」といくつかの例について資料を渡して説明しました。「地元の T 社などは神奈川県で地元の金融機関や大学と共同して黒岩知事のイニシアチブで実証事業に参加しており、すでに電力小売業者の登録も行っている」「府中には他に N 社、K 社など再エネに関連した法人市民や大学があり、国有施設も多く大きな可能性がある」「新しい社会に向けての取組みを行なうことはどこの市でも行っている駅前再開発などよりは、効果的な“まち興し”“自治体ブランド”につながる」と指摘したところ、

「実は多摩川の河川敷の広大な地域を使えないかと、国交省に打診したことがあるが利用のあてがあるとのことでダメになった・・・」「農業振興の立場からソーラーシェアリングも JA に紹介している」と明かしました。

「そうした大きな構想を検討し、市民に情報提供してゆく専門的な作業チームを編成して研究する必要があるのではないか」と指摘したところ「**たしかにそういうセクションを置く必要がある。職員だけの力では無理**」と同意しました。

別の会員から「給食センターを建てるなら、太陽光パネルだけでなく太陽熱を使った給湯システムも入れて欲しい」という提案があり、話しは建物の話に進みました。

(三)学校の長寿命化は長期的に見て重要課題

私たちの「会」の質問書には「小中学校の長寿命化計画にあたっては、エネルギーを買う必要のないゼロエネルギースクール」を目指して欲しいという項目があり市長は「費用対効果を含め検討する」と答えていました。

市長は「府中市は学校建設が、早い時期に進み、それだけ老朽化が進んでおりこの長寿命化の

大規模改修は大きな課題である」と重視しました。

ZEB（ゼロエネルギービル）の考えが具体化されており、学校の ZEB 化に関するあらたな公的な公募事業等を紹介したところ「**これは 100 年後の子どもたちを育てる課題なので是非やりたい**」と答えました。

（四）遅れている地球温暖化対策推進計画にもとづく世帯への太陽光パネルの普及

この問題については、「2011 年に計画を策定したときに、“現状がどうか”についてアンケート結果から推計した結果５％（約 5000 軒）と見積もっているが、まず実情をしっかり把握する必要がある。資源エネルギー庁が 2014 年から系統に接続しているパネル配置世帯数の公表をしており、2015 年 11 月段階でようやく 2000 軒を越したところ」と説明すると、市長は聞き入り、「私の前職の幼稚園でもパネルを配置しているが、なかなか経済効果がわからない」と述べました。「この問題について市は啓蒙する立場なので、取り付けている方を把握して情報交換会をひらき、その結果を市民に知らせるなどの努力が必要」「今後は技術が進むので太陽光パネルと蓄電池で系統に接続しない人も出てくる。こうした方も市は把握する方法を考えるべき」と指摘しました。市長は「たしかに蓄電池の進展の効果は大きい」とし、「今は環境課が緑の保全からペット問題までやっている。**確かに特化した専門セクションは必要**」と述べました。

（五）その他

「政令指定都市の規模になれば、いろいろやれるのだが・・・」という市長の話しがありましたので、お隣の調布市が「未来のエネルギー協議会をつくり、市は顧問の立場で参加している」と資料を渡して説明しました。会員からは「公共施設でどのように、太陽光パネルを配置してゆくか計画を立てる必要がある」「“水とみどり”も含めてこの分野の条例を制定したらどうか」と提案があり、市長からは「**この分野は夢があります。特化した取組をしたい**」と述べました。「この懇談は今後も継続したい」と希望を伝えて今回の懇談を終えました。

なお「給食センターを建てるとき、太陽熱を使った給湯システムも」という提案をした際、「残念ながら実施設計に入っていますので」とのことでしたので、パネル一台で太陽光発電と集熱給湯機能を持った「ハイブリッドパネル」があることを紹介し、翌日、秘書のメールアドレスにカタログのpdfファイルを送りました。

（六）総評

懇談を終えて短い時間、意見交換しました。「普段見えない市長の動きがわかった」「いろいろ提案することが大事」「その場限りにならないで欲しい」といった意見がありました。

（七）参考

http://www.miyazaki-solarway.com/company/index.html　今回の懇談で話題になった法人市民の K 社の自然エネルギーの取組を紹介したホームページです。大変、参考になります。